

令和 4 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2021

課題番号：20K23133

研究課題名（和文）介護サービス利用者、家族介護者、職員のQOL：三者の相互関係と組織文化との関連

研究課題名（英文）Quality of Life of long-term care service users, family caregivers, and staff:
The mutual relationship of the three stakeholders and organizational culture

研究代表者

中部 貴央（Nakabe, Takayo）

東京大学・医学部附属病院・特任助教

研究者番号：90883645

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、多施設横断の無記名自記式質問紙調査の結果に基づいて、介護に関わるステークホルダーである介護サービス利用者・家族介護者・介護職員、三者の生活の質（QOL）について、その相互の関係性と組織文化との関連について検討した。利用者と家族介護者、利用者と職員のQOL間に関連が認められた。また、家族介護者の介護負担感の軽減、QOLの維持・向上が、家族介護者自身の精神的健康状態に寄与しうる。介護の質担保に重要と考えられる、介護職員の職務満足度および精神的健康状態の向上には、組織文化のうち、研鑽の機会の確保や職員との事業所の将来像の共有がより重要であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

超高齢社会の進展によって介護需要が高まっている。介護サービス利用者のQOLは重要な介護の質指標であり、介護の質に介護の担い手たる家族介護者・介護職員のQOLとの関係性について統合的に検討した。利用者と家族介護者、職員の三者の立場から介護に関わるステークホルダーのQOLについて検討した本研究の成果は、萌芽期にある介護の質を探求する制度・政策への基盤となりうることを期待される。

研究成果の概要（英文）：This study examined the interrelationships among the quality of life (QOL) of long-term care service users, family caregivers, and care staffs based on the results of a multicenter, cross-sectional, self-administered questionnaire survey. We found a relationship between the QOL of users and family caregivers, and between users and staff. In addition, reduction of the burden of family caregivers and maintenance and improvement of QOL could contribute to the mental health status of family caregivers themselves. The study revealed that, among organizational cultures, ensuring opportunities for study and sharing the future vision of the business were more important for improving job satisfaction and mental health of care staffs, which are considered important for assuring the quality of caregiving.

研究分野：医療社会学

キーワード：Quality of Life 介護 高齢者 介護職員 家族介護者 組織文化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会の進展によって介護需要が高まり、介護サービス利用者(以下、「利用者」とする)の QOL はその維持・向上が望まれ、収集すべき重要な介護の質指標の一つとされる。介護は人と人とのインタラクションが強く、利用者の QOL に対して介護の担い手の影響は大きいと考えられるが、家族介護者のインフォーマルケアや介護負担感(Nakabe et al., 2017; Arai et al. 2014)、介護職員の職務満足度(Coomber et al., 2007)等を中心に検討され、介護の担い手自身の QOL が検討されることは少ない。さらに、介護の質評価において、ステークホルダーである利用者として介護の担い手(家族介護者・介護職員)の視点を同時に考慮した研究は国内外含めほとんどない。

また、介護サービスは、医療と同様に、利用者に対して専門職の多職種協働によるケアが提供されるため、職員間の連携や専門性の向上が介護の質を支えていると考えられる。つまり、「組織で共有された価値観や信念、行動規範(Schein, 1985)」と定義される組織文化は介護現場でもその質の代替指標とも捉えられ、職員の QOL や職務満足度に限らず利用者や家族介護者の QOL にも関連する可能性があり、その質の基盤になりうる。しかし、介護現場の組織文化と利用者等の QOL との関連ははまだ検証されていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、介護サービス利用者・家族介護者・介護職員の QOL と介護現場の組織文化を多施設調査により可視化し、相互の関係性を検証することである。

3. 研究の方法

(1) 無記名自記式質問紙調査

本研究では、デイサービスセンター(12 事業所)の利用者と家族介護者(287 組)を対象とした無記名自記式質問紙調査を実施した(2020 年 10~11 月)。

利用者・家族介護者・介護職員の QOL ならびに介護現場の組織文化を測定・可視化した。QOL は、Euro Qol 5 dimensions [5 levels](EQ-5D-5L)、WHO-5 精神的健康状態票(WHO-5)を用いて、身体的・精神的健康状態を可視化した。(a)利用者は、QOL のほか、要介護度、ADL 状態について把握した。ただし、利用者の認知機能に応じて、職員や家族による代理回答を認めた。(b)家族介護者は QOL に加えて、Zarit 介護負担感尺度日本語版短縮版(J-ZBI_8)を用いて介護負担感を測定し、平均介護時間からインフォーマルケアの大きさを把握した。(c)介護職員の QOL は、WHO-5 のほか、身体的負担(痛み等)や職務満足度を独自項目により測定した。組織文化は、医療機関を対象とした組織文化に関する調査票(Kobuse et al., 2014)を介護現場向けに改訂した調査票を用いて測定する。また、これまで 2017 年度から実施してきた介護職員および利用者に対する調査結果も加えて検討した。

(2) 利用者、家族介護者、介護職員の QOL の相互関係に関する検討

利用者、家族介護者の QOL の相互関係

利用者、家族介護者の QOL に関する各変数間の関係についてスピアマン相関係数を用いて検討した。また、家族介護者の不良な精神的健康状態への関連要因について、家族介護者の WHO-5 スコア 13 点未満を目的変数、家族介護者の QOL (EQ-5D スコア)、介護負担感、利用者の QOL を説明変数、性別、年代、介護時間、利用者の要介護度を調整変数としたロジスティック回帰分析を用いて検討した。

介護職員の精神的健康状態と利用者の QOL、組織文化との関連の検討

8 法人 51 事業所の職員 1315 名を対象とした無記名質問紙調査(2019 年 8 月~12 月実施)の結果をもとに、介護職員の精神的健康状態と利用者の QOL、介護事業所の組織文化との関連を検討した。職員の不良な精神的健康状態(WHO-5 スコア 13 点未満)を目的変数、組織文化・職場環境の各領域、職務満足、痛み、利用者の QOL を説明変数、性別、年代、職種、職位、労働時間、夜勤の有無、事業所形態を調整変数としてロジスティック回帰分析を行った。

介護職員の QOL および職務満足度の経時的変化とその要因に関する検討

7 法人 45 事業所の介護職員を対象とした無記名質問紙調査(2019 年 8 月~12 月、2020 年 8 月~12 月実施)の結果をもとに、介護職員の職務満足度および精神的健康状態の変化について把握し、その経時的変化への関連要因について検討した。経年変化に関する記述統計を行い、2 年目の職務満足度および精神的健康状態のスコアを目的変数とした重回帰分析を行った。説明変数には組織文化 8 領域および職場環境 7 領域の変化量を用い、調整変数は性別・年代・職種・職位・経験年数、事業所種別・法人、1 年目のスコアを用いた。

4. 研究成果

利用者、家族介護者のQOLの相互関係

回答が得られた183組(回収率63.8%)のうち、家族介護者のQOL値およびJ-ZBI_8スコアに欠損のない154組を解析対象とした。抑うつ状態の可能性が高いWHO-5スコアが13点未満の家族介護者は47名(30.5%)であり、精神的健康状態がよい家族介護者と比して、家族介護者の各QOL値は低く、利用者のEQ-5Dスコアも有意に低かった。家族介護者のWHO-5スコアとEQ-5Dスコア(0.48)、利用者のEQ-5Dスコア(0.32)に正の相関、家族介護者のJ-ZBI_8スコア(-0.42)に負の相関が認められた。多変量で調整し、家族介護者の不良な精神的健康状態のリスク要因を解析した結果(OR[95%CI])、利用者が85歳以上の場合(7.84[2.04-38.86])、J-ZBI_8スコアが高い場合(1.14[1.05-1.24])にリスクが高く、介護者のEQ-5Dスコア(0.03[0.00-0.56])が高い場合にリスクが低かったが、利用者のQOLスコアの関連は認められなかった。家族介護者の介護負担感の軽減、QOLの維持・向上が、家族介護者自身の精神的健康状態に寄与しうるが、利用者自身のQOLの維持・向上が関連しうるか、今後サンプルを拡大して検討する余地があると考えられる。家族介護者の介護負担感の軽減、QOLの維持・向上が、家族介護者自身の精神的健康状態に寄与することが示唆された。【中部貴央，原広司，今中雄一．デイサービス利用者と家族介護者のQOL、介護負担感との関連．第80回日本公衆衛生学会総会：2021年12月21日-23日】

介護職員の精神的健康状態と利用者のQOL、組織文化との関連の検討

回答が得られた931名(回収率70.8%)のうち、WHO-5スコアに欠損のない898名を解析対象とした。抑うつ状態の可能性が高いWHO-5スコアが13点未満の職員は410名(47.1%)であり、とくに中間管理職(64.8%)、介護職(50.4%)に多かった。多変量で調整し、職員の不良な精神的健康状態のリスク要因を解析した結果(OR[95%CI])、利用者の精神的健康状態が低い場合(0.81[0.71-0.93])、中間管理職(3.19[1.04-9.83])ではリスクが高いが、看護職(0.11[0.02-0.60])、資源、周囲からの承認、仕事への満足のスコアが高い場合はリスクが低かった。介護職に限定すると、仕事への満足と就業継続のスコアが高い場合にリスクが低かった。利用者の精神的健康状態の維持・向上が職員の精神的健康状態に寄与しうる可能性が示唆され、また中間管理職を中心に介護職への精神的サポートが離職対策においても重要と考えられる。【中部貴央，原広司，今中雄一．介護介護事業所における職員の精神的健康状態と利用者のQOL、組織文化との関連．第79回日本公衆衛生学会総会：2020年10月20日-22日(口演賞受賞)】

介護職員のQOLおよび職務満足度の経時的変化とその要因に関する検討

経年で追跡可能な312名を対象とした。職務満足度の平均の変化量[-4.68±24.67(1回目平均:54.00±26.95, 2回目平均:49.07±27.18)]で有意な減少傾向がみられたが、WHO-5スコアの平均の変化量[-0.05±4.81(1回目平均:12.39±5.59, 2回目平均:12.43±5.57)]には変化が認められなかった。2年目の職務満足度スコアを目的変数としたモデルでは、「プロとしての成長」(β=-0.21)、「資源」(β=-0.20)、「仕事量と負担」(β=-0.10)、「将来像」(β=-0.11)の変化量、1年目のWHO-5スコア(β=-0.12)に有意な正の関連がみられ、た(R²=0.60)。また、2年目のWHO-5スコアを目的変数としたモデルでは、「プロとしての成長」(β=-0.13)、「仕事量と負担」(β=-0.15)の有意な正の関連がみられた(R²=0.47)。介護職員の職務満足度や精神的健康状態の向上において、とくに「プロとして成長」できる環境の整備や事業所としての「将来像」を共有することが重要である可能性が示唆された。【中部貴央，原広司，今中雄一．介護職員の職務満足度および精神的健康状態の経時的変化と関連要因の検討．第59回日本医療・病院管理学会学術総会：東京，オンライン開催 2021年10月29日-31日】

高齢化社会の進展とともに、介護の質評価もより重要視され、利用者自身に限らず介護の担い手も含めたQOLの維持・向上も質評価の大きなアウトカム指標となりうる。本研究は、利用者と家族介護者、職員の三者の立場から、三者のQOLの相互関係を中心に総合的に分析したものであり、本研究の成果は、萌芽期にある介護の質を探求する制度・政策への基盤となりうることを期待される。

<引用文献>

1. Nakabe T, Wimo A, Imanaka Y et al. The personal cost of dementia care in Japan: a comparative analysis of residence types. *International Journal of Geriatric Psychiatry*. 2018;33(9):1243-1252.
2. Arai Y, Kumamoto K, Mizuno Y, Washio M. Depression among family caregivers of community-dwelling older people who used services under the Long Term Care Insurance program: a large-scale population-based study in Japan. *Aging Ment Health*. 2014;18(1):81-91.
3. Billie Coomber, K. Louise Barriball. Impact of job satisfaction components on intent to leave and turnover for hospital-based nurses: A review of the research literature. *International Journal of Nursing Studies*.2007;44(2): 297-314.
4. Schein, E. H. (1985). *Organizational culture and leadership: A dynamic view*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

5. Kobuse H, Morishima T, Tanaka M, Murakami G, Hirose M, Imanaka Y. Visualizing variations in organizational safety culture across an inter-hospital multifaceted workforce. *Journal of Evaluation in Clinical Practice* 2014 2014;20(3):273-80.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一
2. 発表標題 デイサービス利用者と家族介護者のQOL、介護負担感との関連
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一
2. 発表標題 介護職員の職務満足度および精神的健康状態の経時的変化と関連要因の検討
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原広司, 中部貴央, 今中雄一
2. 発表標題 介護サービス利用者におけるQOLスコアの経年変化
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原広司, 中部貴央, 今中雄一
2. 発表標題 介護事業所の組織文化と利用者QOLの経年変化との関連
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一
2. 発表標題 介護事業所における職員の精神的健康状態と利用者のQOL、組織文化との関連
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一
2. 発表標題 介護事業所におけるクライシスマネジメントへの意識と組織文化との関連
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------